

独立行政法人航空大学校訓練機事故に係わる 航空事故調査報告書の発表にあたっての声明

2004年8月27日、国土交通省航空・鉄道事故調査委員会は、2003年7月11日に宮崎市で発生した独立行政法人航空大学校所属JA4166号機の墜落事故(操縦教員1名及び操縦練習生2名死亡、操縦練習生1名重傷)に係わる航空事故調査報告書を発表した。

この事故は、操縦教員が訓練飛行からの帰投中にエンジンの異常を訴えていることから、機体に何らかの異常を来したのが原因と考えられてきたが、この航空事故調査報告書でも、エンジンが突然停止したことに事故の原因があることが明確に指摘されている。

しかし、一方で、あたかも操縦教員の不時着時の操作に問題があったかのような、曖昧な表現が盛り込まれていることに加え、職員訓練の拡充強化に関する事項が数多く指摘されていることは、本来の原因を見誤る可能性もあり、納得のいくものとは言えない。

私たちは、操縦教員が、飛行中のエンジン停止、そして墜落の恐怖という最悪の事態にもかかわらず、同乗者の生命や飛行下の地域の住民の生命・財産の確保にも配慮し、最も適切な処置を実施したと確信している。

全運輸は、訓練の再開にあたり、独立行政法人航空大学校当局に対し、安全対策の拡充強化とともに、再発防止策の策定を求めてきた。改めて、航空事故調査報告書の公表にあたり、当局に対して、所見にある指摘事項を真摯に受け止め、職員訓練の拡充強化を図ることを求めるとともに、幅広く再発防止にむけたとりくみを継続していくものである。

2004年8月30日
全運輸労働組合